

# 中小企業設備投資動向調査 [2022年1月調査]

(対象は断りのない限りすべて国内設備投資)

## 調査要旨

### 1 設備投資の有無…21年度、22年度ともに前年同時期から大幅に増加

設備投資の2021年度実績見込(以下、「21見込」)では、実施(設備投資「有」)企業割合は全体の57.2%と実績見込として2006年度以来の高水準。2022年度当初計画(以下、「22当初」)では、設備投資「有」が全体の38.4%と当初計画時点では2008年度以来の高水準となった

### 2 設備投資の目的…22年度は「新規事業への進出」等が上昇

21見込の設備投資目的の上位は「設備の代替」、「維持・補修」となっている。22当初でも両項目の割合は依然高いものの、21見込対比で低下しており、「増産・販売力増強(国内向け)や「新規事業への進出」の比率が大きく上昇した。

### 3 設備投資額の増減率…21年度実績見込は、3年ぶりのプラス

全産業の設備投資額の増減率は21見込で前年度実績対比+7.0%となり、実績見込時点では3年ぶりにプラスに転じた。22当初は21見込比▲25.8%。21当初(▲34.1%)を上回った。

### 4 設備投資「無」の理由…22年度にかけ「景気の先行き不透明」等が減少

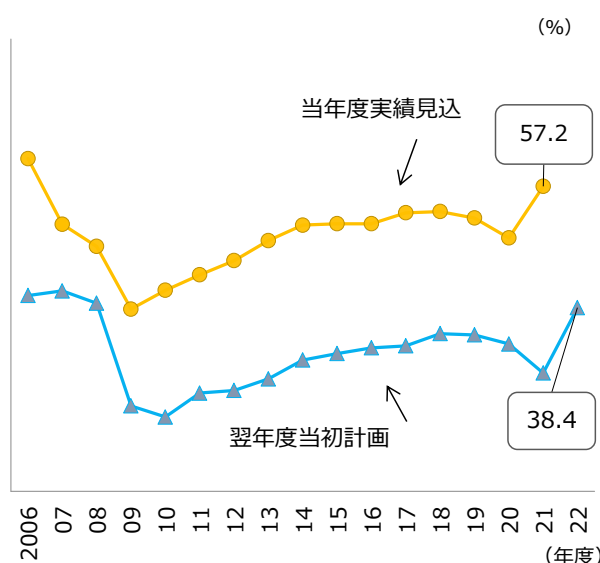
21見込の設備投資無しの理由の上位は「現状で設備は適正水準」が最も多く、次いで「景気の先行き不透明」。22当初にかけての変化を見ると「景気の先行き不透明」や「企業収益の悪化」が減少。

### 5 設備資金調達方法…「金融機関借入」割合が減少

1社当たりの設備資金調達構成比を単純平均した結果をみると、21見込の全企業平均は「金融機関借入」が34.1%。22当初も「金融機関借入」が38.8%。いずれも前年同時期より借入比率が低下。

## <設備投資「有」とした企業の割合の推移>

《当年度実績見込と翌年度当初計画推移》



《当初計画→修正計画→実績見込→実績時点比較》

